

妻垣神社

旧縣社

御祭神

御神徳

比咩大神 (玉依姫命) …… 子孫繁栄・縁結び・安産・子宝・子育て
八幡大神 (応神天皇) …… 国家鎮護・家内安全・殖産興業・厄除開運
神功皇后 (息長帯姫命) …… 神人交歓・勝運・開拓・安産・子宝・子育て

御由緒 ～『都麻垣宮略旧事記』より～

当社は比咩大神の垂迹された地である。初代天皇である神武天皇（神倭伊波禮毘古命）は日向を発し、御東征の途中（紀元前 667）、筑紫の国宇佐の地に立ち寄られる。宇佐国造の祖宇沙都比古命・宇沙都比賣命は、宇佐の川上に宮を造り大御饗を奉る。

天皇は翌朝、四方を觀て曰く、『ああ、ここは靈なる地である。連山は四方に廻り長城の如し。一河（深見川）の漣波は徐かに流れており、浄氣の霧を布いた玉露の地にして、本当に豊饒の境である。そして連山の中央にある共鑰山（妻垣山）は多くの峯々よりも素晴らしい。我、母后（玉依姫命）の御靈をここに祭ることにする。』原廟を建て御自ら祭祀に臨まれる。するとたちまち山岳は動揺し、河水は激しく崩れ流れる。

そして河の淵の中に靈石が顕れ、神女、石上にお立ちになって曰く、『我、天朝の安泰を祈り、衆生を利する為に清浄の河水に浴洗する。浴水の所を末代に至るまで汚穢することはせぬように。このことを信じぬものに対して信じさせるために、この石の上に足跡を留める。疑うことなかれ。』このように告げ終え、山上に至り原廟に留まる。帝、肅然として左右を顧みて曰く、『これは玉依姫の御靈である。』侍臣ことごとく新たな神靈を拝した。そして天皇は原廟を「足一騰宮」と名付け、東国へと旅立たれる。

天平神護元年(765)、宇佐宮の八幡大神は勅使石川豊成に神託して曰く、『我、是より安心院に至る。共鑰山に社殿を設け祀るように。』当地に社殿を設けて八幡大神を祀り、併せて足一騰宮より比咩大神を鎮め奉る。天長年間(823～834)、宇佐宮より神功皇后が勧請する。以後当社は比咩大神を主祭神とし、宇佐宮八ヶ社の一社となり宇佐郷の宗社となる。

天種子社

御祭神は、天種子命・宇沙都比賣命。妻垣神社代々の宮司・矢野家の祖先神である天種子命は、神武天皇より玉依姫命を祀る足一騰宮を守護する役を命じられ、宇沙都比賣命を天皇の仲立ちにより妻に娶った。「妻垣」という地名はこの故事になぞらえたものである。以前、この御社は共鑰山の入山口(字権現)に鎮座していたが、昭和の中頃から行方不明になっており、早急な再建が望まれる。

貴船社

御祭神は、間瀬神・高瀬神。この両神は山上・谷川に住む竜神とされ、水の調整を自在に操り、国土を潤し、草木の生育とすべての食料を豊かに繁茂させる神である。